国際関連情報　国際会議等

第1回リサーチ・フォーラムについて

ASBJ 常勤委員　関口 智和（せきぐち ともかず）

1. はじめに

国際会計基準審議会（IASB）は、学術研究の成果を会計基準の開発に役立てること等を目的として、リサーチ・フォーラムの開催を開始している。同フォーラムは、世界における会計基準に関する学術研究者とIASB関係者やその他の会計基準設定主体者等が一堂に会し、国際的な財務報告の要求等に関する論点について意見交換を行うことを目的としたものである。今回、2014年10月2日に、英国オックスフォード大学の講堂で、第1回目のフォーラムが開始されており、当委員会からは、関口常勤委員と紙谷ディレクターが参加した[1]。フォーラムは、学術研究者から研究成果が発表され、それに対して別の学術研究者及びIASB関係者からコメントがされた後、参加者と質疑応答や意見交換がなされる形で進められた。本稿では、今回のフォーラムについて、各議題の概要を中心にご紹介する。

2. フォーラムの概要

⑴　開会のセッション

冒頭、主催者及びIASB関係者から、フォーラムの意義等について説明がなされた。特に、IASB関係者からは、会計基準の開発における政治的な圧力に対して十分な証拠に基づいた反論が必要であり、その点で、学術論文の分析や活用は重要との見解が示された。

⑵　概念フレームワーク

本セッションでは、IASBにおいて「財務報告に関する概念フレームワーク」（以下「概念フレームワーク」という。）の見直し作業が行われていることを踏まえ、「概念フレームワークは、将来の基準開発の手引きとなるものか、あるいは現行実務を正当化するものにすぎないか」という題で研究成果が示された上で、コメント及び意見交換が行われた。とりわけ、概念フレームワークの見直しは、現行実務を正当化するようになっていないかという問題提起がされた一方、IASB関係者等からはそれに対する反論がなされた。

1　我が国からは、当委員会からの参加者のほか、数名の学術研究者が参加した。

⑶　財務情報の質的特性

本セッションでは、IASB が 2010 年に公表した概念フレームワークのうち、「第 3 章：有用な財務情報の質的特性」に関する記載を踏まえつつ、「財務情報の質的特性と経営者の会計上の意思決定：IFRS における会計方針の変更から得られた証拠」という題で研究成果が示された上で、コメント及び意見交換が行われた。

具体的には、IFRS に基づいて作成された財務諸表の開示によると、正当な会計方針の変更の理由として、概念フレームワークで挙げられている質的特性以外に信頼性や透明性の向上といった理由が示されており、有用な財務情報の質的特性について十分な理解がされていないのではないかという問題提起がされた一方、IASB 関係者等からはそれに対する反論やさらなる研究が有用と考えられる点等についてコメントがなされた。

⑷　会計基準の設定における慎重性

本セッションでは、「会計基準の設定における慎重性に関するリサーチの含意」という題で慎重性の概念に関する研究成果が示された上で、コメント及び意見交換が行われた。

⑸　測　定

本セッションでは、IASB が現在審議を行っている概念フレームワークで焦点の一つとなっている測定基礎の選択のあり方について、研究成果が示された上で、コメント及び意見交換が行われた。とりわけ、元 IASB 理事のバース教授からは、研究成果によると、欠陥はあるものの、すべての資産及び負債を公正価値で測定することが有用な財務情報を提供することに資するとの見解が示された。これに対して、IASB 関係者等からは当該見解に対する反論やさらなる研究が有用と考えられる点等についてコメントがなされた。

⑹　企業の年次報告書におけるデリバティブ取引の開示

本セッションでは、「企業の年次報告書におけるデリバティブ取引の開示：有用性に関する銀行アナリストの見解」という題で IFRS 第 7 号「金融商品の開示」等に基づくデリバティブ取引の開示についての利用者の見解に関する研究成果が示された上で、コメント及び意見交換が行われた。

⑺　のれんに関する開示のあり方と資本コストとの関係

本セッションでは、「のれんに関する開示要求と資本コストとの関係」という題で、のれんに関する開示のあり方と株価との間に相関関係があるかについて研究成果が示された上で、コメント及び意見交換が行われた。

⑻　許容可能な会計上のリスクと IASB の概念フレームワーク

本セッションでは、「報告の公正性：許容可能な会計上のリスクと IASB の概念フレームワーク：エンロン事件の裁判からの見解」という題で、エンロン事件の裁判で示された見解を踏まえ、「会計上のリスク」という質的特性を追加的に必要と考えるかについて研究成果が示された上で、コメント及び意見交換が行われた。

⑼　意思決定有用な情報

本セッションでは、「意思決定有用な情報」という題で、意思決定有用な情報の特性に関する研究成果が示された上で、コメント及び意見交換が行われた。

3. 所　感

上記でご紹介したセッションを通じて、同フォーラムは、学術研究者と会計基準設定主体関係者が一堂に会して議論を行う機会を提供する画期的なイベントであるというコメントがしばしば聞かれた。発表者である学術研究者の中にも、「これまで会計基準の開発について意見を述べたことはなく、初めての機会である。」と発言していた者も複数名いた。学術研究と基準設定の関係については、両者の関係を強化すべきという見解がしばしば聞かれるが、少なくともこれまでは両者に大きな距離感があったことを改めて認識させられた。